

1 道徳における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心として全教師が協力して道徳の時間を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進するための具体的方策、道徳教育推進教師の研修の充実

① 協力体制の充実

校長の方針の下、学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために、全教師が力を発揮できる体制を整える必要がある。

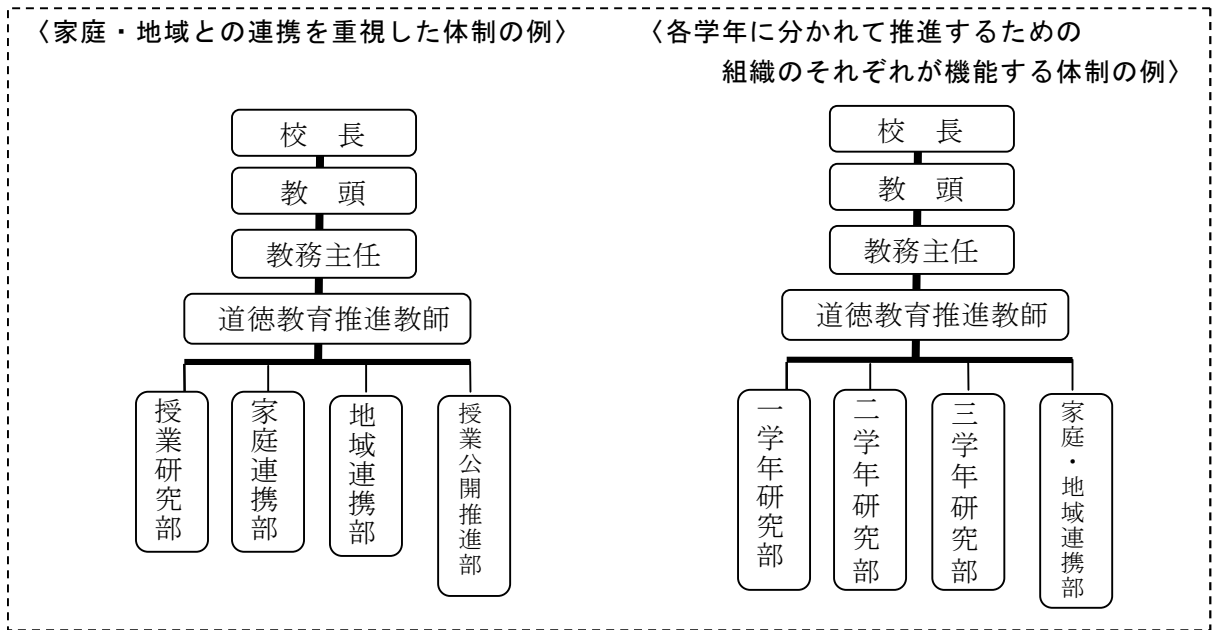


図1 各学校における協力体制の例

- ・ 全教師が参画する体制を具現化する。
- ・ 道徳教育の推進を中心となって担う教師を位置付けるようにする。〈道徳教育推進教師〉
- ・ 道徳の時間の指導、各教科における道徳教育、家庭や地域との連携等の推進上の課題に合わせた組織、学年段階ごとに分かれて推進するための組織など、機能する体制をつくる。
- ・ それぞれの教師が主体的に関わることができる体制とする。
- ・ 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育推進のためのチームをつくり、学校全体の各部門と関連を図った体制などを工夫する。

② 道徳教育推進教師の役割

- ・ 各学校の実態や課題等に応じて、学校として推進すべき事項を明らかにした上で、その役割を押さえておくことが重要である。
- ・ 道徳教育推進教師が全体を把握しながら、全教師の参画、分担、協力の下に道徳教育が円滑に推進され、充実していくよう働き掛けていくことが望まれる。

(2) 道徳の時間の授業公開

① 道徳の時間の授業公開のねらい

◎ 家庭・学校・地域社会が一体となった道徳教育の推進

- ・ 子供を取り巻く環境の変化に対応するための家庭・学校・地域社会との連携
- ・ 学校教育への協力者を得る
- ・ 学校の説明責任を果たす

② 道徳の時間の授業公開を学校教育の活性化に生かす

- ・ 地域の教育力を取り込む
- ・ 教育課程の適正な実施を促す
- ・ 外部評価を教育活動に生かす

## 中学校 道徳

- ・ 校内の環境整備に生かす

- \* 家庭や地域への呼び掛けは、見たいと思わせるものにしていくことが大切である。道徳の時間の授業公開は、「いつでもどこでも」を合言葉とした開かれた学校の雰囲気づくりに生かすものであることが大切である。

### 2 「中学校道徳 読み物資料集」活用のポイント及び指導上の留意事項

#### (1) ねらい

- ・ 道徳性の様相の記載について統一を図った。(Ex. 「～道徳的心情を養う」「～道徳的態度を育てる」)
- ・ ねらいの重点化を図っているので解説の内容項目そのものが書いてあるわけではない。

#### (2) 資料について

##### ① 「キミばあちゃんの椿」3-(1) 生命尊重

- \* 東日本大震災における心のケア等の観点から、震災以前に作成していた「死」を扱った資料を全部カットした。「生きる」ことに焦点化した内容である。

##### ② 「闇の中の炎」4-(1) 規範意識

- \* 1-(1)自主・自律ではないかという意見が出ている。「規範意識」をどう捉えるかという問題である。「法をやぶらなければいい」という視点で捉えると、規範意識の資料として読めなくなる。

##### ③ 「鳩が飛び立つ日 -石井筆子-」4-(2) よりよい社会の実現

- \* これからも女性の生き方を取り上げた資料を開発していきたい。

### 3 道徳教育の現状と課題

#### (1) 地域に根ざした道徳教育の推進の必要性

- ・ 未来を担う子供たちの豊かな人間性を育成する重要性が強調されていること
- ・ 教育基本法における教育の目標として「豊かな情操と道徳心を培う」ことを新規に規定していること
- ・ 新しい学習指導要領において、道徳教育の更なる充実が求められていること

#### (2) 道徳教育総合支援事業

##### ① 自治体による多様な事業の支援

##### ② 日本人の良さを生かし伸ばす道徳教材の開発活用

- ・ 東日本大震災における助け合いや冷静沈着な行動など、世界から高い評価を受けた日本人の道徳性を一層生かし、伸ばすため、道徳教育の視点ごとに読み物資料を作成する。

##### ③ 道徳教育推進協議会

- ・ 地域における創意工夫を生かした実践事例の紹介など、道徳教育の推進方策に関する全国協議会を開催している。

### 4 その他

#### (1) 質疑応答

① 道徳の時間の評価について：道徳的実践力の評価は、1時間でできるものではない。道徳の時間については、自分との関わりで考えることができたのかという学習状況の評価になる。道徳教育の成果であれば、道徳的実践や質問紙でも捉えることができる。

② 体験活動を資料とする際の留意点について：日常の体験活動そのものを資料とする場合には、児童が道徳的価値に対する感じ方や考え方を表現しやすいものにしていくことが大切である。道徳の時間の特質を生かした展開が可能になるよう、活用を視野に入れた工夫が求められる。

③ 道徳教育の重点目標について：道徳教育の全体計画において、重点目標に係る内容項目はできるだけ少なくし、明確に指導の重点化を図ることが望ましい。全教師がそれを共有し、共通理解の下、実践していくことが大切である。

④ 自作資料の作成について：自作資料の作成に当たっては、中心場面の設定や道徳的価値の設定を明確に行うとともに、人権上の配慮や表記上の配慮などをしていくことが大切である。また、より多くの人による検討を行い、誰でも使えるようにしていく必要がある。

